

第10回 塩竈市長期総合計画審議会 概要

日 時 平成22年5月27日(木) 19:00~
場 所 塩竈市役所本庁 3階 北側委員会室
出席委員 大滝委員、宮原委員、斎藤委員、丹野委員、馬場委員、土井委員、今野委員、齋藤委員、
板橋委員、石田委員、阿部(邦)委員、庄子委員、松戸委員、佐々木委員
欠席委員 11名
塩 竈 市 市長、副市長、各部長
事 務 局 総務部政策課
司 会 政策調整監

- 1.開会
- 2.会長挨拶
- 3.審議 第5次長期総合計画基本構想素案について
将来人口フレームについて
都市像について

【将来人口フレームについて】

(事務局) 塩竈市の人口は平成7年にピークに達し、一方、国内の人口は平成17年にピークに達している。塩竈市は国内よりピークが10年早い。全国でも10年後には塩竈と同じ現状になると思われる。

塩竈市の人口はこのままだと2020年に51,201人と予想されているが、今回の目標で55,000人にしようとしている。理由は、2020年の塩竈の生産年齢人口割合56%は全国と比較して4%低く、逆に65歳以上の老年人口は34.8%と全国よりも5%以上高くなり、市政運営に大きな影響を及ぼすことが懸念されるためである。人口減少の抑制というよりは、生産年齢人口の割合を全国平均に近づけていくということが大切と考えている。

目標人口を55,000人にした場合の生産年齢人口割合は57.8%となり、全国平均の60%に近くなる。市の負担も軽減出来るのではないかと考えている。

55,000人にするための具体的な人口増加策については、現在、全庁において基本計画の策定に合わせて検討している。一例を挙げると、北部地区の住宅開発、北浜緑地護岸背後の集合住宅の整備、海辺の賑わい地区南側、未利用地の開発などで転入人口700人分の住宅開発が可能ではないかと考えている。また、子育て支援の充実や待機児童ゼロの維持、福祉の推進、地域医療の充実、防災・生活安全の充実、住空間整備の推進、交通体系の充実、教育環境の充実、狭あい道路の整備などを想定している。

これらのソフト策とハード策によって、目標である55,000人の達成を目指していきたいと考えている。

(会 長) 転入人口の抑制、転入人口の増加策について皆様からご意見、ご質問を頂きたい。

(委 員) 生産年齢人口の増加に伴う出生数の増加分で300人とあるが、これは期待値なのか、人口問題研究所の推計値なのか。

(事務局) 10年で3,500人の生産年齢層を呼び込むことにより、300人の出生数の増加を試算している。

(会 長) 北部地区の住宅地開発、海辺の集合住宅整備で人口増加を見込むということだが、それぞれの地区でどういう数値を出しているか教えて欲しい。

(事務局) 北部地区は面積的には約10.2ヘクタール、海辺の集合住宅整備は北浜緑地護岸の整備に伴い約5ヘクタールを想定している。これらに、他事例の面積あたり個数や宅地割合をもとに世帯数を推定し、700人と積算している。

(会 長) 面積あたりの戸数だけではなく、マンション整備による高度利用を含めているということですね。

(委 員) これから生まれてくる子供の環境に関する施策がどこにも入らなくていいのか。

(事務局) 定住に関するソフト施策の中の“子育て支援の充実”に、“産み・育てる環境づくり”も含めている。

(委 員) 塩竈の人口減少の原因の一つは核家族化だと思う。県内で人口が増えているのは利府と富谷だけだが、利府、富谷の旧市街地はすでに減少傾向にある。人口対策については、業界団体も含めて、み

んなで相当に研究していかないとなかなか難しいという感じする。持ち主が一人の賃貸住宅なら回転が進んでいいが、マンションは空洞化が懸念される。

(委員) 国が推計している 51,000 の人口に対して塩竈市が目標とする 55,000 人の根拠というのはわからない。55,000 人にこだわる根拠を教えてください。

(事務局) 一般的には、少子高齢化は地域の経済、教育、産業、労働者人口などにたいへんな影響を及ぼすと考えられている。国が塩竈より高齢化率が 5%低い状況で様々な制度設計をしているため、塩竈はその 5%を地域として負担をしなくてはならないのではないかと危機感を持っている。その割合をできるだけ国の方に近づけ、負担を軽減し、浮いた分を新たなまちづくりに投入することも可能になってくるのではないかと考え、試算した数値が 55,000 である。

一気に全部を詰めるというのはなかなか難しいので、さしあたって半分の 2.5%ぐらいは詰めさせていただきたいという数値であるので、是非ご理解をいただきたい。

他市町村より 10 年先に人口減少になったが、長期総合計画の策定にあたっては、10 年後には塩竈は全国より一歩先に進んだまちとなることを目指して計画を作っている。

(会長) 人口を増やすというのは現実的に並大抵なことではない。審議会としてはこの数字がしっかりした根拠に基づいているのか確認することが必要である。おそらく審議会委員全員がこの数字に賛成するというのはなかなか難しいと思っているが、出来るだけ議論を尽くすことが必要と思っている。

【基本理念について】

(事務局) 基本理念については、これからのまちづくりに取り組む市民の姿勢であるが、これまで委員より様々なご意見をいただいた。それらを踏まえ、再度事務局の方で検討し、次の 3 つの基本理念を提案させていただいた。

一つ目は、「いきいきと未来に向かって進みます」。二つ目は、「塩竈の魅力や資源を活かします」。三つ目は、「みんなで支えあい、一つになって取り組みます」と修正した。審議を頂きたい。

(会長) 前回まで漢字で表されていたが、それを今回は分かり易く文章にしたということである。

(委員) 基本理念 2 の塩竈の「かま」は「かまど」なのか。それから、「資源」と「魅力」を入れ替え、「塩竈の資源や魅力を活かします」の方がいい。資源があってそこから醸し出せる魅力という方がいいと思った。

(委員) 基本理念 3 の「ひとつになって」をできれば「心をひらいて」に直した方が良い。

(委員) 「心をひらいて」という所を「みんなで支え合い、知恵を出し合い取り組みます」にすると前向きになると思う。

(会長) 「いきいきと未来に向かって進みます」についてはいかがでしょうか。

(委員) 塩竈らしさという視点では、抽象化・一般的な表現という気がする。未来という言葉キーワードに時間軸の視点で考えるならば、「いきいきと」を、「歴史を活かし」とか「歴史を踏まえ」に変えた方が歴史と未来が共存し、塩竈らしいのではないか。

(会長) 成熟したうおいのあるまちづくりに向けて、未来と過去を両方見据えながらじっくりと取り組んでいくというスタンスは、それ自身が塩竈らしさを表している。

(委員) 「歴史を宝に未来に向かって進みます」とかはどうでしょうか。

(委員) 趣旨は同じで「歴史を見据え未来に向かって進みます」ではどうでしょうか。

(委員) もっと歴史というのを上げていただきたい。

(会長) 今日いただいた意見を踏まえてさらに検討し深めていきたい。

【都市像について】

(事務局) 委員の皆様 13 名の方から 28 件の提案をいただいた。海をキーワードにした案、精神的なものをキーワードにした案、魚をテーマにした案、いろいろな要素が加わった案など多種多様であった。

また、市職員から提案を募集し、5 名から 17 件の提案が寄せられた。合わせて 45 件の提案を資料に記載している。

(委員) 提案を追加して欲しい。「安心・安全・安住のまち みなと・しおがま」、「市民力つなげて未来へ みなと・しおがま」、「未来につなげる歴史と文化 みなと・しおがま」、「未来に活かす市民力 協働の街 みなと・しおがま」、「あなたの夢が大きくはばたく みなと・しおがま」を考えてきた。

(委員) 今、塩竈に必要なものは市民が立ち上がる事である。目標を大きくして、他の地域が真似の出来ないよう

な大きなテーマを掲げていただきたい。そうすれば市民1人、2人と立ち上がっていくのではないか。

- (委員) 荒川区では毎回幸福度調査を実施し、都市像である「幸福実感都市」の実現に向け、行政と市民が一体となっていて計画が進んでいる。第5次計画こそ「市民の力をつける」という意味で、ぜひ都市像に「市民力」という言葉を入れて欲しい。
- (会長) 市民力を高めていくために市民や行政が何をしていくのか、その裏付けが基本計画の中にしっかりあるということが大切である。都市像は、言葉が魅力的だけではなくその裏付けがちゃんとあるようなものを作っていたら良い。
- (委員) 市民が行政と自分の間に壁を作っている。市民が壁を破ってドアを開けて入っていける人を育てることが必要である。
- (委員) マリンゲート周辺がだいぶ変わって、今までの塩竈と違うイメージを持った。都市像では「海」は塩竈と離せないと思う。
- (会長) 港や海と直接接している海辺の賑わい地区とかマリンゲートのエリアは、これまでの総合計画とは違うものを作ろうとしていて、実態としても見えてきている。もっと港と海と市民との接点が次の10年で進んでいくと思われるので、それを押し出す都市像があってもいいのではないかと思う。
- (委員) 「しおがま」というフレーズを除いて何か塩竈というのが分かる物が入っているのが良い。
- (委員) これからの未来を担う子ども達が喜んでくれるようなキャッチフレーズをお願いする。
- (委員) 「社とさかなのまち」というのは第3次計画の都市像でしょうか。
- (委員) 第4次計画の「海・食・人が活きるまち」は私が作ったのですが、これを作ったときに海・人・食フォーラムを開催したらどうかという提案をしたが、一度もやらなかった。都市像を作れば、それに見合っ活かしていくような活動をするべきである。
- (事務局) 本塩釜駅前にあるものは「社とさかなのまち」は観光物産協会が募集した観光キャッチフレーズである。
- (委員) 市民の人につぶやいてもらえる五・七・五で「海・歴史・市民協働 みなとまち」ではどうでしょうか。
- (委員) 資料にある都市目標の、「誰もが安心して暮せるまち」「海・港と歴史を活かすまち」「夢と誇りを育むまち」がすんなりしているのではないか。
- (会長) 皆さんからたくさんいただいたご意見から少し事務局で絞らせていただき、その中から審議会で絞り込んでいきたい。
- (委員) 人口フレームの所で、これから市として具体策、誘致策が必要になると思うが、横須賀市では人口誘致のための専門部署を作り、誘致の為にポスターを掲示したりして動いている。千葉県の流山市では、マンションの増加に合わせて駅に保育ステーションというものを作り、送迎保育サービスを行っている。積極的にやっている市や町が出てきているので、資料など提示いただくと良い。

次回の日程は、6月29日(火)19:00からで、場所は同じ予定です。今後につきましては、あと2回くらい必要だと考えております。ただいま人口フレームについて宮原先生からご指摘がありました内容等も含めまして、出来るだけの物をそろえて次回に取り組みたいと考えておりますので宜しくお願いいたします。